

# 令和5年度博物館事業評価（内容、目標値の確認）

資料2-2

## 戦略指標1 資料収集と保管・活用

・地域を特徴づける資料収集と保管 ・資料データ化と収蔵資料の充実 ・地域の文化を地域で保管活用

### 定量的評価

No.	評価項目	単位	R3 実績	R4 実績	R4 目標	R5 目標	考え方・基準	変更点・備考
1	新規受入資料件数	件	27	17	20	15	当該年度の受入件数	目標値の下方修正(収蔵庫の状況を踏まえて)
2	収蔵資料台帳のデジタル化件数(累計)	件	85,555	88,916	85,600	94,000	年度末時点のデジタル台帳登録件数(中期目標:R7年度10万件 ※台帳未整備含む全点推計約16万の62.5%)	当初目標を上回っているため上方修正
3	新規受入資料の公開率	%	31	26	50	40	当該年度とその前年度の受入資料件数のうち、公開(展示、刊行物、インターネット等)した件数の比率	目標値は、数年の実績を踏まえ下方修正
4	収蔵品オンライン検索システム「ある蔵」における公開件数(累計)	件	11,992	12,004	12,125	12,250	年度末時点の「ある蔵」公開件数(中期目標:R7年度12,500件、※デジタル台帳登録目標100,000件の12.5%)	
5	館内収蔵庫の点検・清掃回数	件	12	12	12	12	温湿度等環境点検及び庫内清掃回数(月1回見当)	
6	資料事故発生件数	件	6	0	0	0	紛失、破損、汚損等の件数	

### 定性的評価（A達成 Bおおむね達成 Cもう少しで達成 D達成していない）

No.	評価項目	見直し	R3 自己	R3 委員	R4 自己	R5	判断基準	備考
1	計画的な資料収集が行われている。		A	B8人	A		資料収集方針・資料購入基準に基づいている。	判断基準に、会議記録を残すことを追記
			B		A	現状の収蔵環境を踏まえて、収集検討会議により受入を決定し、 <b>会議記録を残している。</b>		
			B		B	資料購入評価会の構成員をあらかじめ想定し、すぐに対応できるようにしている。		
2	資料の保管が確実になされ、良好な状態に保たれている。		B	C4人 D4人	B		資料管理のフローチャートが運用されている。	
			B		A	収蔵庫の鍵の管理や機械警備の運用が厳格に行われている。		
			D		C	資料の収蔵場所を明確にするとともに、その場所への収蔵が確実に行われている。		
			C		D	全ての収蔵施設におけるデジタル台帳作成が計画的に行われている。		
3	全ての収蔵施設が計画的に運用されている。		C	C4人 D4人	C		収蔵庫の温湿度を常に計測し、必要な措置を講じている。	
			D		D	全ての収蔵施設について毎年現地点検を行い、必要な措置を講じている。		
4	収蔵資料の活用と見直しが図られている。		B	B3人 C5人	B		デジタルデータの公開活用が推進されている。	判断基準に、内規に基づくことを追記
			C		C	未整理資料や再整理を要する資料の活用に向けた確認・整理作業が推進されている。		
			A		A	他館への資料貸出、画像提供、資料熟覧への対応が <b>内規に基づいて適切</b> に行われている。		
			-		-	-	廃棄・移管・返却等に係る <b>除籍手続きが基準に基づいて適切</b> に行われている。	

※判断基準の変更点は、ゴシック体で表記するとともに備考欄にその旨を記載

## 戦略指標2 調査研究

・学芸員の質の向上 ・地域の研究機関との共同研究 ・地域資料の掘り起こし

### 定量的評価

No.	評価項目	単位	R3 実績	R4 実績	R4 目標	R5 目標	考え方・基準	変更点・備考
1	学芸員が講演・講座等の講師を務めた件数	件	12	19	15	15	外部での研究発表や出前講座も含む。連続講座は1回。ギャラリートーク、展示解説は非該当。	研究発表を基準に追加
2	学芸員の学術的著述本数(外部での掲載を含む)	本	3	6	3	3	館報・図録・報告書や、外部研究誌等へ記名の著述掲載本数。連載は1本。2年目以降の学芸員1人1本目標。	
3	学芸員が調査に出向いた件数	件	24	27	20	20	外部での資料調査、熟覧、視察など。同一調査に複数回でも1件。	
4	他機関と連携した調査研究の件数	件	6	5	6	6	大学、機関、研究者等との調査研究連携件数。イベント等のみは含まない	

### 定性的評価 (A達成 Bおおむね達成 Cもう少しで達成 D達成していない)

No.	評価項目	見直し	R3 自己	R3 委員	R4 自己	R5	判断基準	変更点・備考
1	市役所組織の中で博物館が調査研究施設として位置づけられている。調査研究が学芸員の重要な業務の一つとして位置づけられている。		C	C6人 D2人	C		調査研究とその他業務における適切な業務量の配分と分担がされている	評価項目の表現を変更
2	調査研究の環境が保たれている。		D	B1人 C4人 D3人	C		調査研究に必要なスペースが確保され、機材が適切に配備されている	
			C		C		調査研究スペースにおいて整理・整頓が日常的に行われている。	
			B		B		調査、視察、研修、有識者指導など学芸員の資質向上に必要な予算が確保され、積極的に活用されている。	判断基準に活用状況に関する文言を追加
3	博物館が市民や外部の組織などから調査研究施設として位置付けられている。調査研究が適切な内容・方法で行われている。		C	B3人 C5人	B		設定されたテーマに基づいて質の保たれた調査研究が計画的に行われ、講座等で市民に還元している。	・評価項目の表現を変更 ・判断基準に、質に関する文言を追加
			B		B		学芸員が外部機関との共同研究に参画している	

※評価項目及び判断基準の変更点は、ゴシック体で表記するとともに備考欄にその旨を記載

### 戦略指標3 展示・教育普及活動

・浜松市と関連のある展示の企画 ・学校や地域と連携した講座やイベントの開催

#### 定量的評価

No.	評価項目	単位	R3 実績	R4 実績	R4 目標	R5 目標	考え方・基準	変更点・備考
1	観覧者数(本館)	人	29,311	31,547	35,000	35,000	本館合計(アウトリーチを除く)	
2	観覧者数(分館)	人	21,762	22,859	25,000	25,000	5館合計	
3	企画展開催件数	件	7	8	6	6	特別展、テーマ展、小展示(スポット展示や外部での展示は含めず)	外部展示は指標4で評価
4	企画展の満足度	点	7.5	7.7	7.5	7.7	アンケート(0~10点)の平均値。展示毎に算出し、その平均とする。	
5	分館における企画展開催件数	件	18	23	12	12	巡回展や企画展のほか、各所管部署や指定管理者主体の展示も含む。	
6	講座開催件数	件	9	14	10	10	館主催の講演会・講座の回数。先方依頼講座は含まず。連続講座は1回。	出前講座は指標4で評価
7	体験事業満足度	点	※ 99	9.3	※ 95	9	アンケート(0~10点)の平均値。事業毎に算出し、その平均とする。 ※は4段階評価時の数値	
8	学校移動博物館開催件数	件	10	9	6	6	学校へ博物館職員が出向く形での展示・体験学習の実施件数。	
9	教材貸出件数	件	99	94	100	100	学校等への教材用資料や体験学習用具の貸出件数。	
10	常設展内の資料更新回数	件	2	5	4	4	常設展の部分的な展示更新の回数(期間限定の展示を含む)。	
11	レファレンス対応件数	件	31	80	40	45	来館、メール、電話等による件数合計。	

#### 定性的評価 (A達成 Bおおむね達成 Cもう少しで達成 D達成していない)

No.	評価項目	見直し	R3 自己	R3 委員	R4 自己	R5	判断基準	変更点・備考
1	本館は、市内の歴史文化について正確でわかりやすい解説が行われており、市内外の人びとが浜松市を理解し、知的好奇心を満たすことができる場である。		D	B4人 C4人	D		常設展の魅力向上に取り組むとともに、UD化多言語への対応(多言語・音声・ハンズオン・配置・文字サイズ・難易度等)を進めている。	判断基準のUD化を多言語性への対応に言い換え
			B		B		計画的な企画展の開催により、収蔵資料を効果的に公開している。	
			B		B		展示や教育普及事業において、デジタル技術を活かした効果的な事業展開を行っている。	
			B		B		速報展など時節や市民ニーズに即応した柔軟な事業展開を行っている	
2	分館は、各地域の歴史文化について正確でわかりやすい解説が行われており、知的好奇心を満たすことができる場である。		B	B8人	B		各地域の特色を生かした常設展示が行われている。	
			B		B		各分館の地域の人々や担当者の意見や要望が、企画展示等の事業に反映されている。	
3	学校の学習内容に即した見学・体験のプログラムを行うとともに、授業を支援する教材を提供している。		A	A7人 B1人	A		主に小学校3年生と6年生の学習内容に合わせた見学・体験プログラムが構成されている。	
			A		A		学校のニーズ等を把握し、見学・体験プログラムの改善に努めている。	
			C		C		デジタル技術を用いたオンライン上での学習支援を進めている。	
4	市民に学びの場を提供している。		C	B6人 C3人	C		来館者が理解を深められるオンラインの活用を含めた効果的な講座や展示解説等を開催している。	判断基準に、オンラインの活用について追加
			B		B		レファレンスには丁寧に対応し、適切な説明を行っている。 博物館実習をはじめ、多様な研修を受け入れている。	
5	浜松の歴史や文化を題材とした体験学習事業を行っている。		A	A3人 B5人	A		展示や講座等と関連付けた体験学習事業の開催により学習の相乗効果が高められている。	
			B		B		幅広い層が学びながら楽しめる体験学習プログラムを開発している。	

※判断基準の変更点は、ゴシック体で表記するとともに備考欄にその旨を記載

## 戦略指標4 市民協働

・地域を特徴づける資料収集と保管 ・資料データ化と収蔵資料の充実 ・地域の文化を地域で保管活用

### 定量的評価

No.	評価項目	単位	R3 実績	R4 実績	R4 目標	R5 目標	考え方・基準	変更点・備考
1	地域団体等と連携した事業の実施件数	件	4	3	3	3	自治会や市民団体等との連携による館内・蛭塚公園・伊場公園を利用したイベントなど(連続するものは1件)	
2	市民参加型事業の開催件数	件	2	2	2	2	共同調査、意見聴取型WS、協業などの件数	
3	逸品陳列出張展示開催件数	件	1	1	3	3	外部の店舗や施設から依頼を受けて出張展示を行った件数	評価項目の表現をわかりやすく変更
4	出前講座等開催件数	件	8	11	10	10	依頼を受けて講座に出向いた件数	
5	他団体共催事業件数	件	6	5	5	5	展示、講座、イベント等で調査研究は含まない	
6	ボランティア参加延べ人数	人	442	356	500	450	ボランティアの延べ活動人数(研修除く)	目標値下方修正(体験学習事業数の減による)
7	ボランティア養成事業開催回数	回	8	10	6	6	講座、報告会、実習等の資質向上に関する事業の開催回数	

### 定性的評価 (A達成 Bおおむね達成 Cもう少しで達成 D達成していない)

No.	評価項目	見直し	R3 自己	R3 委員	R4 自己	R5	判断基準	変更点・備考
1	博物館の事業運営をボランティアなど市民協働で推進している。		B	B8人	B		ボランティアの募集・育成・活動の拡充を進めている	
			B		B	ボランティアにインセンティブ(講座等事業の優先参加や個別サービス等)や企画提案の場を用意するなど意欲向上の取り組みを進めている		
			B		B	シティプロモーションを意識した事業展開を <b>官民連携も含めて</b> 進めている。	判断基準に、官民連携の文言を追加	
2	博物館の事業が、新たな文化創造や社会の課題解決に寄与している。		B	B4人 C4人	B		市民団体等に <b>博物館や蛭塚公園でのユニークベニューを促進している。</b>	判断基準を、下記評価項目3から移行
			C		C	社会の課題解決に向けた事業展開を図っている。		
3	地域との連携が良好な関係性のもとで行われている。		B	B7人 C1人	B		<del>市民団体等に博物館や蛭塚公園でのユニークベニューを促進している。</del> <b>地域住民の活動の場として博物館や蛭塚公園が有効活用されている。</b>	判断基準を、評価項目2へ移行し、地域での活用に関する判断基準を新たに設定。
			B		B	地域との連絡・調整体制が築かれている。		
4	各分館が地域の特色を示すとともに課題解決の場となっている。		B	B8人	B		分館事業に対する感想や <b>各地域の</b> 要望を把握し、課題の改善に努めている。	判断基準に、分館の無い地域も含むよう文言を変更
			B		B	分館担当者や指定管理者との定期的な連絡・調整の場を設定している。		

※評価項目および判断基準の変更点は、ゴシック体で表記するとともに備考欄にその旨を記載

## 戦略指標5 情報の発信と公開

・SNSによる情報発信 ・多言語対応ガイドシステム導入 ・観光訪問者への情報提供

### 定量的評価

No.	評価項目	単位	R3実績	R4実績	R4目標	R5目標	考え方・基準	変更点・備考
1	SNSフォロワー数	人	—	1,936	1,900	2,100	ツイッター、インスタグラムの年度末時点のフォロワー数。	
2	HPアクセス数	件	75,501	85,522	80,000	80,000	博物館HPのトップページアクセス数。広聴広報課で把握。	今後、トップページ以外の計測も可能になれば、評価項目の見直しを検討。
3	アップした動画の平均再生回数	回	642	391	500	500	年度内にアップした動画の年度末時点の再生回数の平均値	
4	報道取り上げ回数	回	84	52	100	100	新聞・ラジオ・TV・雑誌等の取り上げ回数	下方修正

### 定性的評価 (A達成 Bおおむね達成 Cもう少しで達成 D達成していない)

No.	評価項目	見直し	R3自己	R3委員	R4自己	R5	判断基準	変更点・備考
1	効果的な情報発信の手段や方法が選択されている。		A	B8人	A		・過去の実績やアンケート等に基づき、事業の規模や対象に合った情報発信手段(広報誌、ポスター・チラシ、広告、HP、SNS等)を適切に選択している。	
			C		C	・HPや収蔵品検索システム「ある蔵」の、内容の充実と見やすさの改善に努めている。	判断基準に、HPも追加	
			B		B	・積極的な報道発表を行い、報道機関を通じた情報発信に努めている。		
2	市内外の幅広い層に向けて博物館の周知を行っている。		C	B5人 C3人	C		・展示解説やパンフレットなど多言語化への対応を進めている。	
			B		B	・観光施設や宿泊施設等との連携を深め、博物館の広域的な周知に努めている。		
			B		B	・地域の魅力を紹介することで、地域に対する関心の向上に努めている。		
3	博物館の多様な所蔵資料や活動内容についての情報を発信している。		A	A1人 B7人	A		・刊行物(博物館報、博物館だより、博物館情報等)が計画通り発行されている。	
			B		B	・HP等における事業の動画や資料、収蔵品の情報など、オンラインを活用した来館できない人向けの情報提供に努めている。		
			B		B	・SNSでは事業の開催周知だけではなく、日々の活動状況も公開することで、博物館事業への理解が深められるように努めている。		

※判断基準の変更点は、ゴシック体で表記するとともに備考欄にその旨を記載